

サービス利用者名

一般利用者を想定しているため、実証期間中にモニタを募集し、アンケートにより効果を測定し評価する。

サービス提供者名

(一財)リモート・センシング技術センター、
(株)電通九州、TIS(株)、(株)CenterQ

プロジェクト概要(200文字程度)

アフターコロナ時代の祭り・観光においては「来場者の密度調整による安全確保」や「祭りの事業継続のための安定収益」等が必要とされる。本プロジェクトは、衛星データによる都市のデジタルツイン作成から、XRコンテンツのユーザー体験まで一連した実証を行うことで、衛星を活用した観光モデル構築を目指す取り組みである。 ※XRとは現実世界と仮想世界を融合する技術を総称した言葉であり、VRやAR等が含まれる。

プロジェクト詳細(図表等を用いて説明)

【1. 現状・課題】

近年、約50年の歴史を有する「宮島水中花火大会」や「西日本大濠花火大会」が相次いで終了。



宮島



大濠

終了の主な理由は、来場者が多く**安全確保が困難**になったこと。また継続のための**安定収益も課題**。



花火に限らず、アフターコロナの祭り・観光では

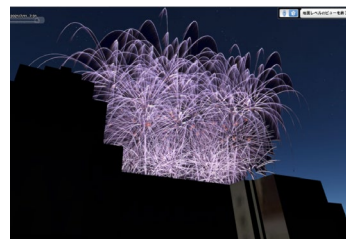
- ①来場者の密度調整による安全確保
- ②祭り事業継続のための安定収益
- ③魅力的な会場コンテンツの開発が必要。

【2. 実証内容】

衛星データによる福岡のデジタルツイン作成から、花火XRコンテンツのユーザー体験まで、一連した実証を行い、アンケートで成果を計測。



衛星3Dデータ(AW3D)により福岡市(大濠公園周辺)のデジタルツインを作成。
アーカイブ利用でコスト削減。



デジタルツイン上に、デジタル花火を作成。
デジタル・特有の表現で、オリジナリティが向上。
企業協賛の見せ方も検証。



参加者は自宅でコンテンツを体験。
アンケートにより作品評価・心理変化・収益可能性の3点を計測。

【3. 効果】

【全国の地方創生に活用】

衛星の観光活用の手法を確立し、どの地域でも安価に再現し、持続可能なモデルを構築。

【福岡の次ステップの実証に活用】

本実証をベースに、「博多祇園山笠XR」・「博多どんたく港まつりXR」・「都市アートXR」を追加展開。